

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 3 区分

【発行日】平成23年1月6日(2011.1.6)

【公開番号】特開2010-235955(P2010-235955A)

【公開日】平成22年10月21日(2010.10.21)

【年通号数】公開・登録公報2010-042

【出願番号】特願2010-126711(P2010-126711)

【国際特許分類】

C 0 8 L 33/08 (2006.01)

B 2 9 C 47/00 (2006.01)

C 0 8 K 5/3465 (2006.01)

B 2 9 K 21/00 (2006.01)

【F I】

C 0 8 L 33/08

B 2 9 C 47/00

C 0 8 K 5/3465

B 2 9 K 21:00

【手続補正書】

【提出日】平成22年11月10日(2010.11.10)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 1 3

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 1 3】

このため、スコーチの抑制による加硫速度の遅延を改善することができ、射出成形時などに問題となっていたこの問題を解決することで、成形条件の設定範囲を広げることが可能としている。また、加硫物性、特に耐圧縮永久歪特性の低下もみられない。その結果、射出成形、圧縮成形、トランスファー成形等の型成形のみならず、押出成形法にも有効に適用することができ、オイルシール、ガスケット、Oリング等の各種シール類、ホース、ダイヤフラム、ロール、防振ゴム、工業用ゴム部品等の加硫成形材料として有効に用いることができる。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

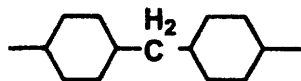
【補正対象項目名】0 0 1 5

【補正方法】変更

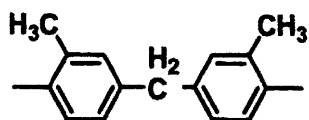
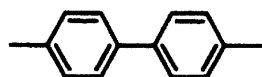
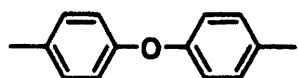
【補正の内容】

【0 0 1 5】

ここで、 R^1 は $C_1 \sim C_{20}$ の直鎖状または分岐状構造の2価の脂肪族アルキレン基、2価の脂環式シクロアルキレン基または2価の芳香族基である。2価の脂肪族アルキレン基としては、例えば $-(CH_2)_1-$ ($1=2 \sim 20$)、 $-CH_2C(CH_3)_2CH_2-$ 等が挙げられ、2価の脂環式シクロアルキレン基としては、例えば



等が挙げられ、2価芳香族基としては例えば



等が挙げられるが、好ましくは $C_4 \sim C_{10}$ の直鎖状アルキレン基が用いられる。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0024

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0024】

カルボキシル基含有不飽和化合物としては、マレイン酸、フマル酸、イタコン酸、シトラコン酸の不飽和ジカルボン酸のメチル、エチル、プロピル、イソプロピル、*n*-ブチル、イソブチル等のモノアルキルエステル等が挙げられ、好ましくはマレイン酸モノ*n*-ブチルエステル、フマル酸モノエチルエステル、フマル酸モノ*n*-ブチルエステルが用いられる。これら以外にも、アクリル酸やメタクリル酸等の不飽和モノカルボン酸も用いられる。これらのカルボキシル基含有不飽和化合物は、カルボキシル基含有アクリルエラストマー中約0.5～10重量%、好ましくは約1～7重量%を占めるような共重合割合で用いられ、これよりも少ない共重合割合では加硫が不十分となって圧縮永久歪値が悪化し、一方これよりも共重合割合を多くするとスコーチし易くなる。なお、共重合反応は、重合転化率が90%以上となるように行われるので、仕込み各単量体重量比がほぼ生成共重合体の共重合組成重量比となる。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0041

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0041】

比較例 1

脂肪族ジアミン加硫タイプカルボキシル基含有アクリルゴム (ユニマテック製品ノックタイトPA-522HF)	100重量部
FEFカーボンブラック(N550)	60 "
ステアリン酸	1 "
4,4'- <u>ビス</u> (<u> </u> , <u> </u> -ジメチルベンジル)ジフェニルアミン (大内新興化学製品ノクラックCD)	2 "
HMDA-Fmoc	1.5 "
1,3-ジ- <i>o</i> -トリルグアニジン(大内新興化学製品ノクセラ- <i>DT</i>)	0.5 "